

## 阿武隈川水系の特徴と課題

### 地形特性に応じた様々な手法による治水対策の実施

- ・ 台風の北上が北向きに流れる流域と重なり、流量の増加を導く
- ・ 盆地と狭窄部が交互に現れる地形から、狭窄部上流での氾濫を助長
- ・ 昭和61年、平成10年、平成14年と洪水被害が発生
- ・ 平地部、盆地部の連続堤防整備を先行的に実施
- ・ 今後、連続堤防のほか、遊水地、輪中堤、宅地嵩上げ等の様々な対応が必要

### 適正な水利用の実施

- ・ 上流域は古くから水不足  
地形的に本川からの取水が困難  
支川は流域面積が小さく水量が不足
- ・ 用水確保のため、明治時代に他流域（猪苗代湖）から安積疎水を建設
- ・ 本川上流域の都市化による本川での水質悪化
- ・ 流域一体となった水質改善への取り組み（「阿武隈川サミット」など）

### 豊かな河川環境の保全

- ・ 天然アユやサケの遡上する自然環境  
河口から横断構造物が少ない  
産卵床に適した砂礫河床
- ・ 観光名所となっている良好な河川環境や人々とのふれあいの場  
浸食進度の遅い花崗岩を下刻した阿武隈峡、阿武隈溪谷や乙字ヶ滝  
福島市内の隈畔
- ・ 水質保全とともに瀬や淵などの保全
- ・ 人々とのふれあいの場の整備

# 阿武隈川における現状、特徴及び課題

## 地域特性に応じた様々な手法による治水対策の実施

### 既往洪水の浸水状況

#### 既往洪水の浸水被害状況

被害項目	洪水名	S61.8洪水	H10.8洪水	H14.7洪水
浸水面積 (ha)		15,117	3,631	2,896
浸水戸数 (戸)		20,105	2,065	1,434

#### 既往洪水発生年の完成堤防延長 (km)

区分	時点	S61.3月時点	H10.3月時点	H14.3月時点
下流 (宮城県)		22.8	29.5	33.1
上流 (福島県)		45.5	47.2	81.5

S61.8 仙台空港周辺の浸水状況

S61.8 洪水時

S61.8 支川 谷田川の決壊と郡山市付近の浸水状況

H10.8 洪水時

H10.8 洪水 8月27日に氾濫し、30日に決壊した支川 堀川が合流する白河市

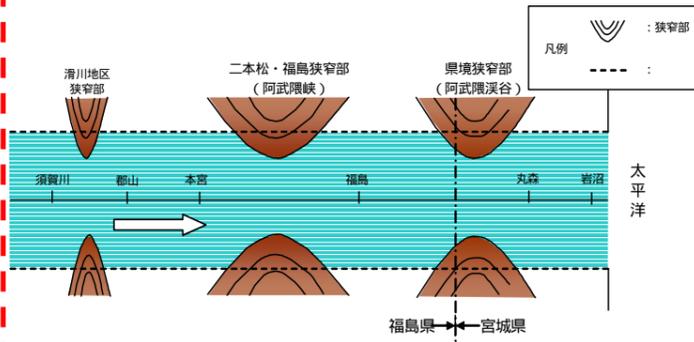
昭和61年8月洪水

支川 釈迦堂川合流点付近の浸水状況(須賀川市)

H14.7 洪水時

宮城県 福島県県境の狭窄部における出水時の状況比較

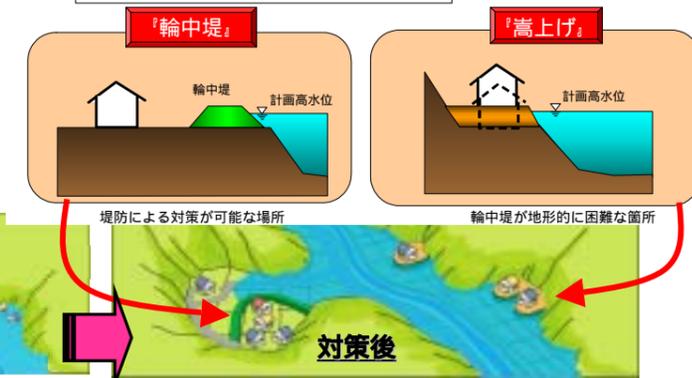
### 阿武隈川の縦断地形模式図



### 従来の遊水機能を維持し、下流域の水位低減を図る浜尾遊水地



### 輪中堤・宅地高上げによる治水対策

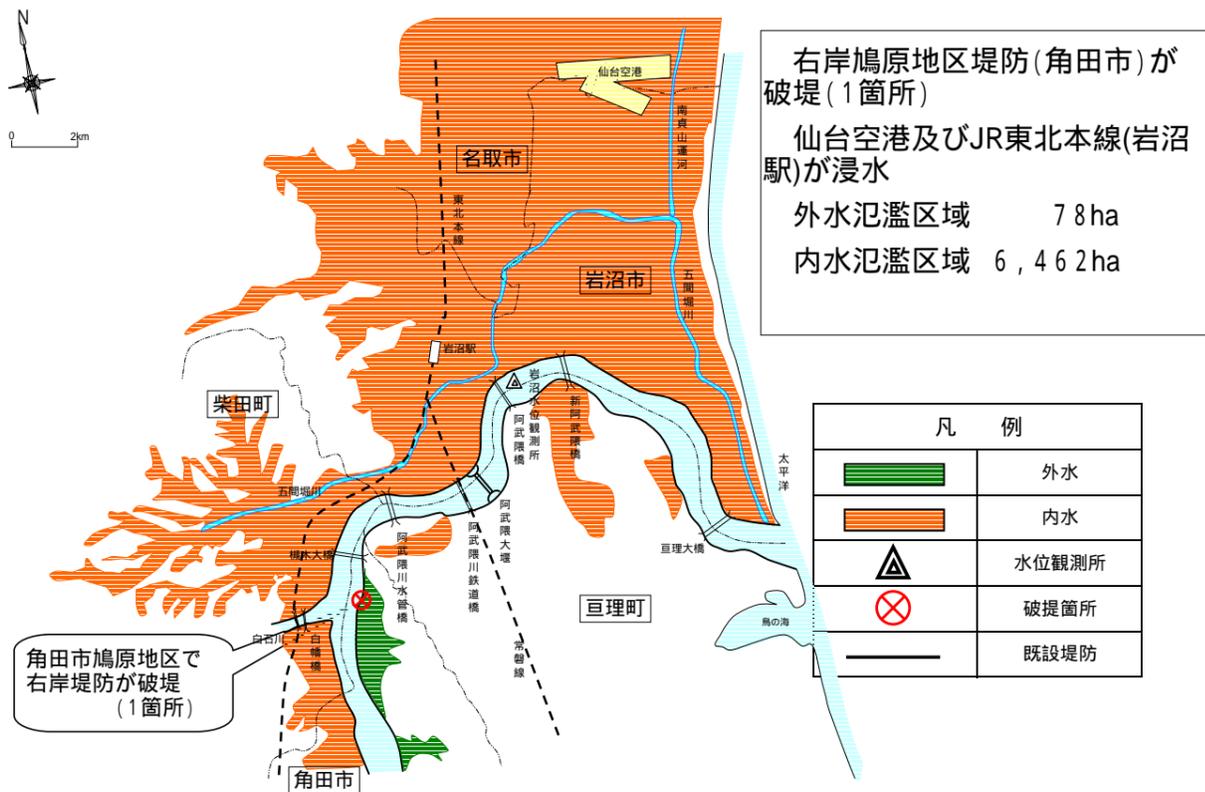


### 狭窄部周辺で家屋が点在する二本松地区の治水対策

- ・ 輪中堤や宅地高上げなどの整備方式
- ・ 氾濫域が残ることによる遊水機能の確保



岩沼地区 昭和61年8月洪水



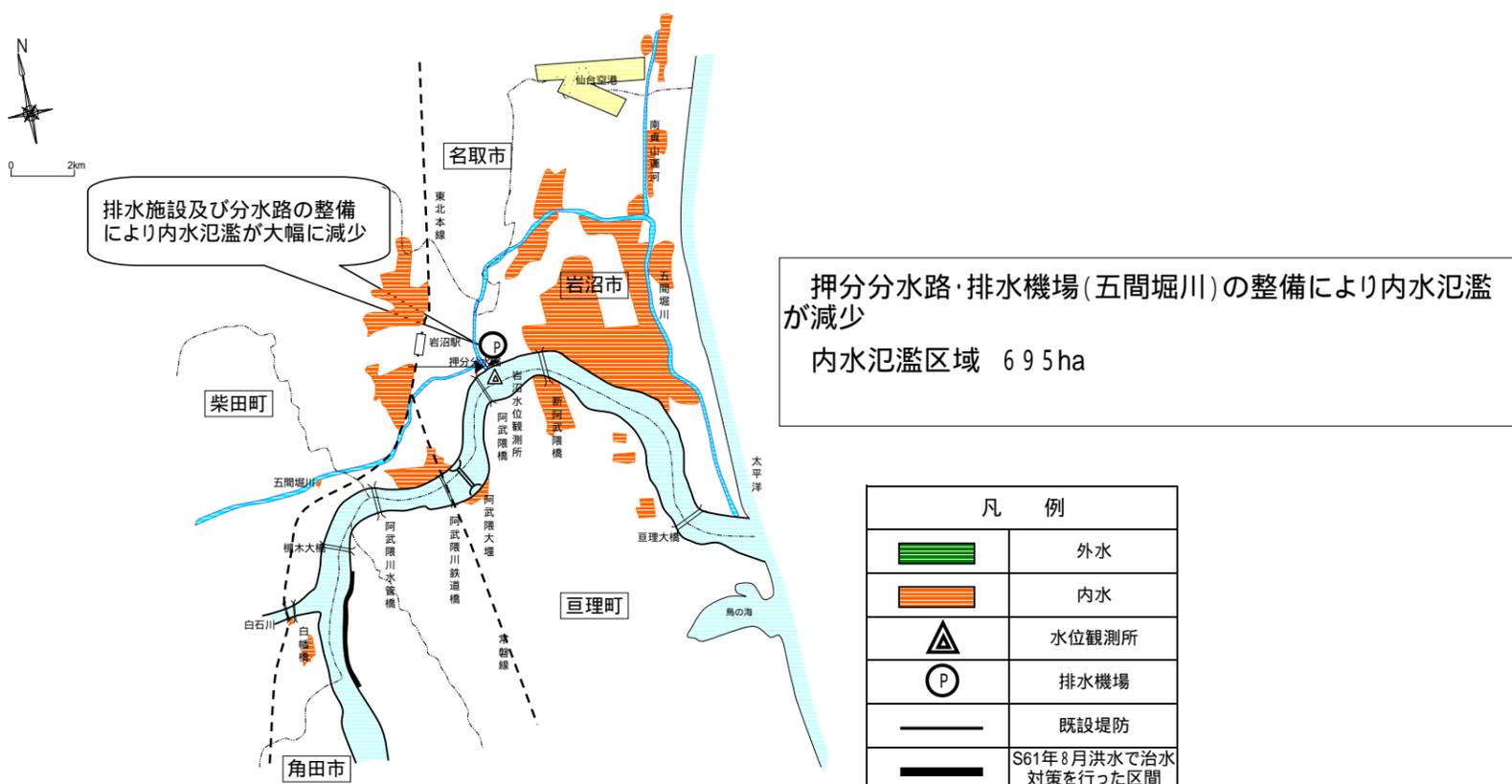
阿武隈流域図



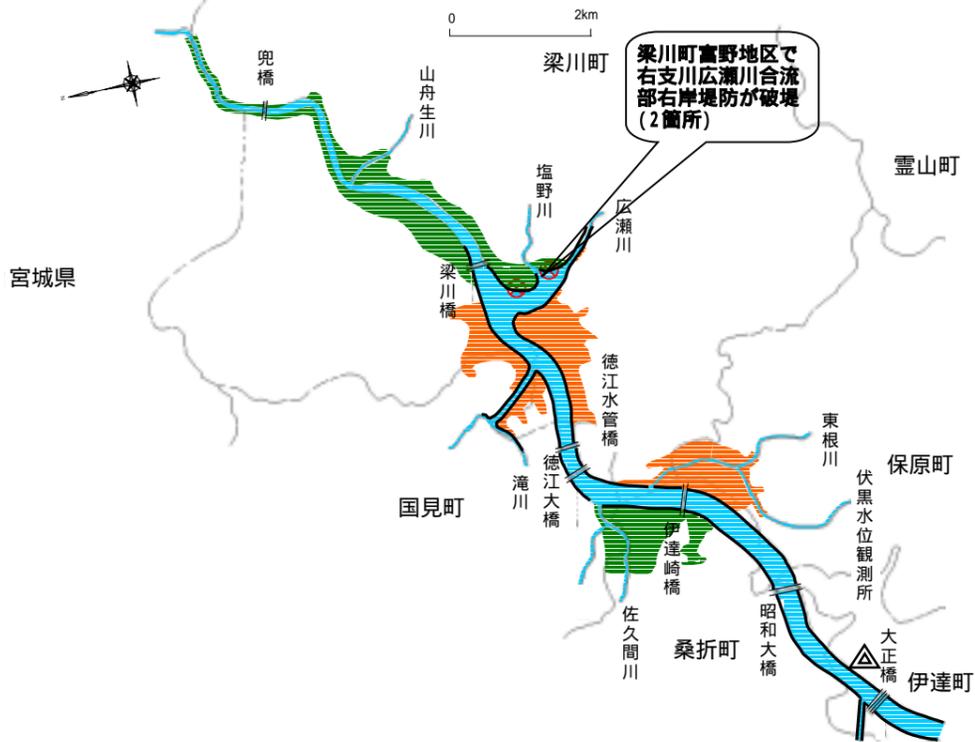
岩沼地区 平成10年8月洪水



岩沼地区 平成14年7月洪水



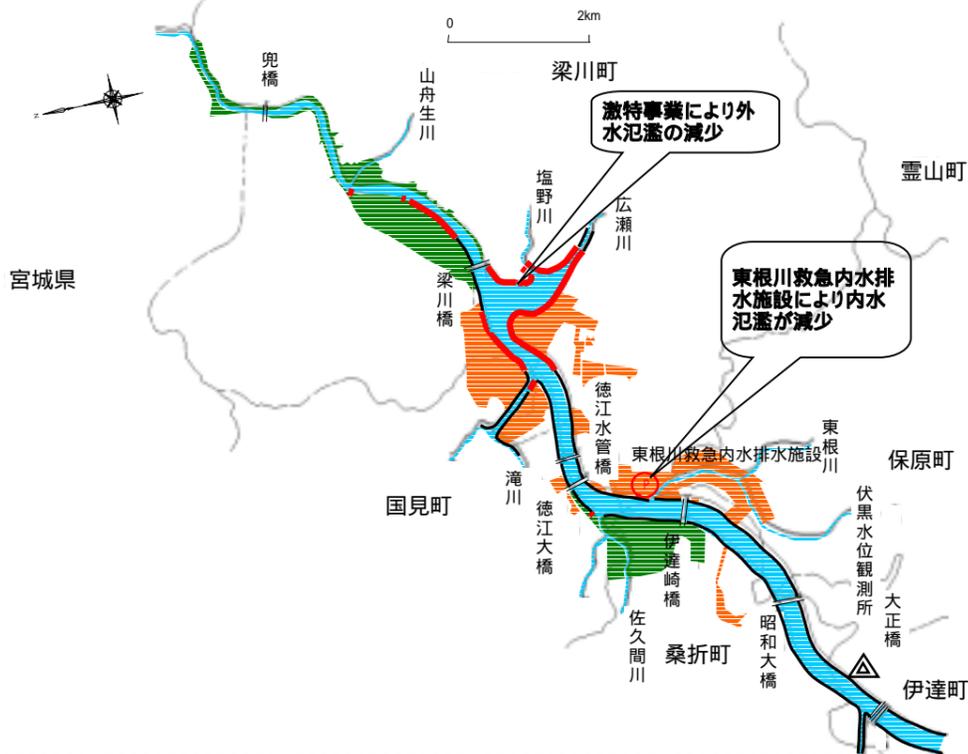
福島地区下流 昭和61年8月洪水



右支川広瀬川合流部右岸堤防が破堤(2箇所)  
 昭和61年8月洪水を契機に激特事業に着手  
 外水氾濫区域 310ha  
 内水氾濫区域 370ha

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	破堤箇所
	既設堤防

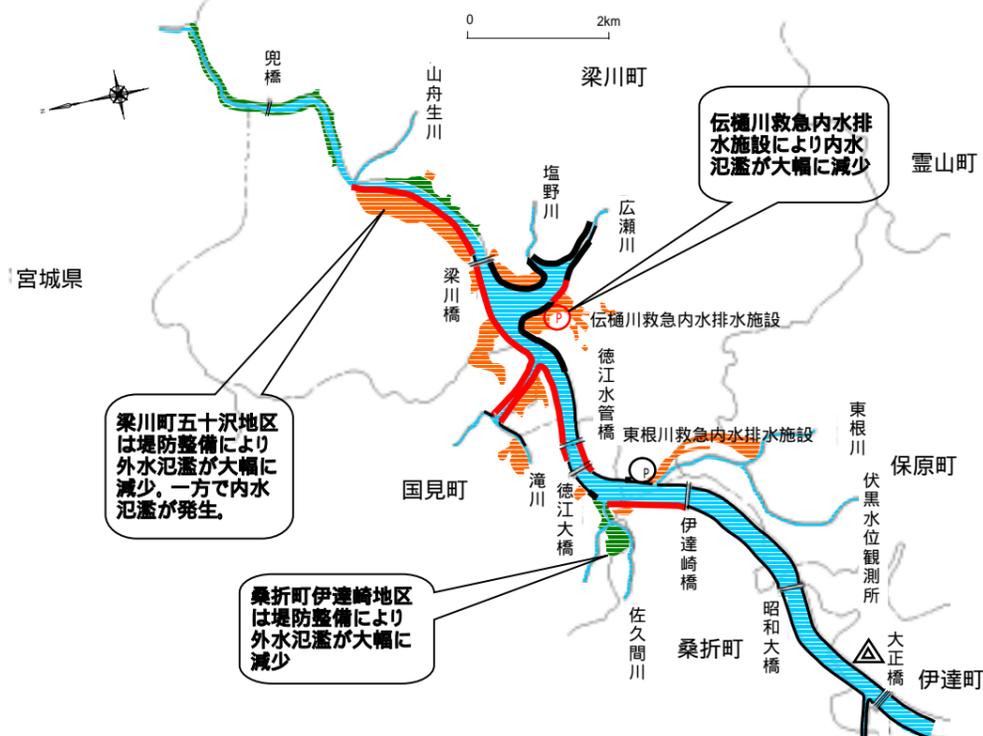
平成10年8月洪水



激特事業による堤防整備により、外水氾濫は減少。一方で、内水氾濫が顕在化  
 外水氾濫区域 270ha  
 内水氾濫区域 270ha  
 堤防整備延長 4.1km  
 平成10年8月洪水を契機に平成の大改修に着手

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	排水機場
	既設堤防
	S61年8月洪水で治水対策を行った区間

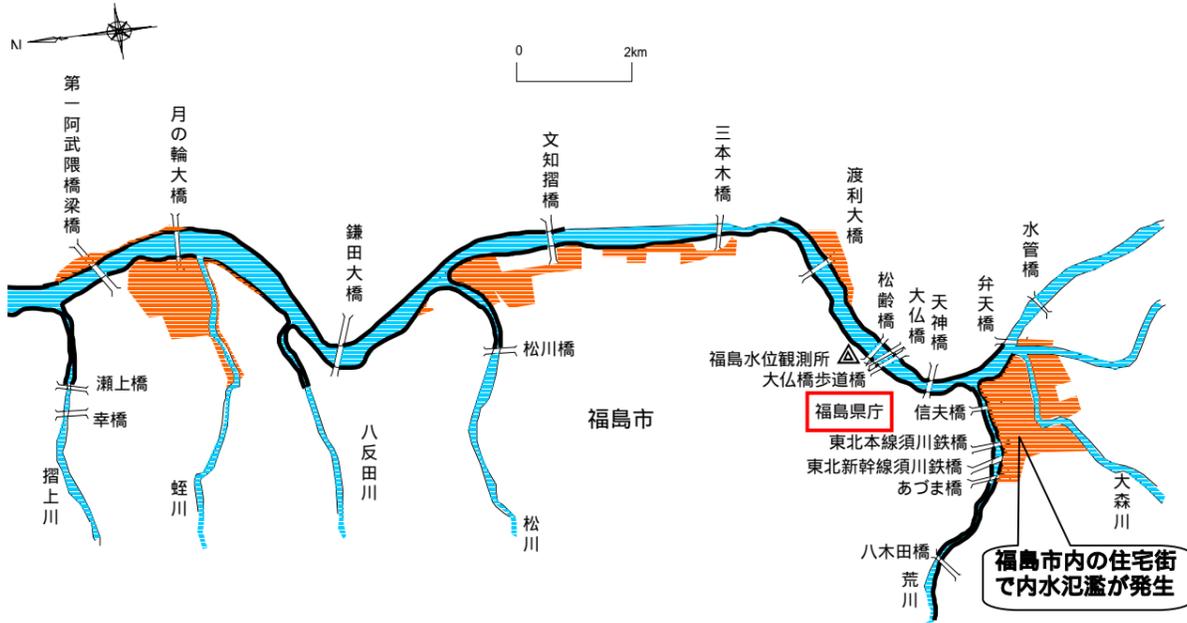
平成14年7月洪水



平成の大改修による堤防整備により、外水氾濫は大幅に減少  
 排水施設の整備により、本川合流点広瀬川左岸付近の内水氾濫も大幅に減少  
 外水氾濫区域 60ha  
 内水氾濫区域 150ha  
 堤防整備延長 4.2km

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	S61年8月洪水で設置した排水機場
	排水機場
	既設堤防
	S61年8月洪水で治水対策を行った区間
	H10年8月洪水で治水対策を行った区間

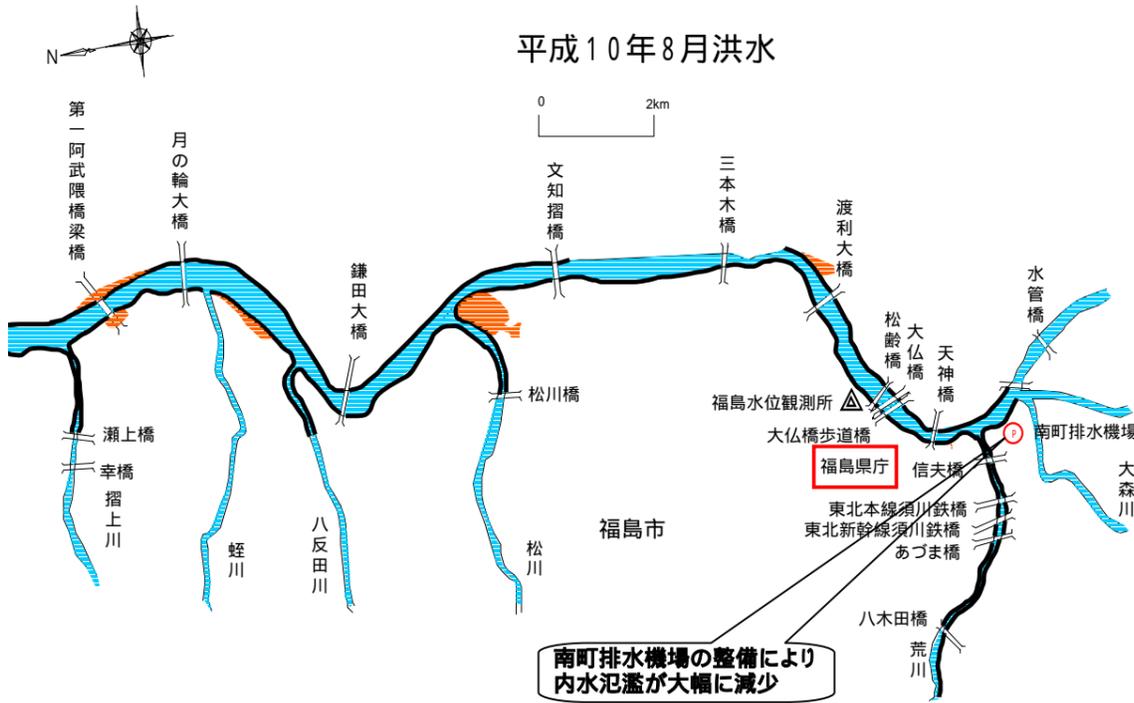
福島地区上流 昭和61年8月洪水



内水氾濫により、福島市内の住宅街で床上浸水被害発生  
 昭和61年8月洪水を契機に南町排水機場整備に着手  
 外水氾濫区域 0ha  
 内水氾濫区域 140ha

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	既設堤防

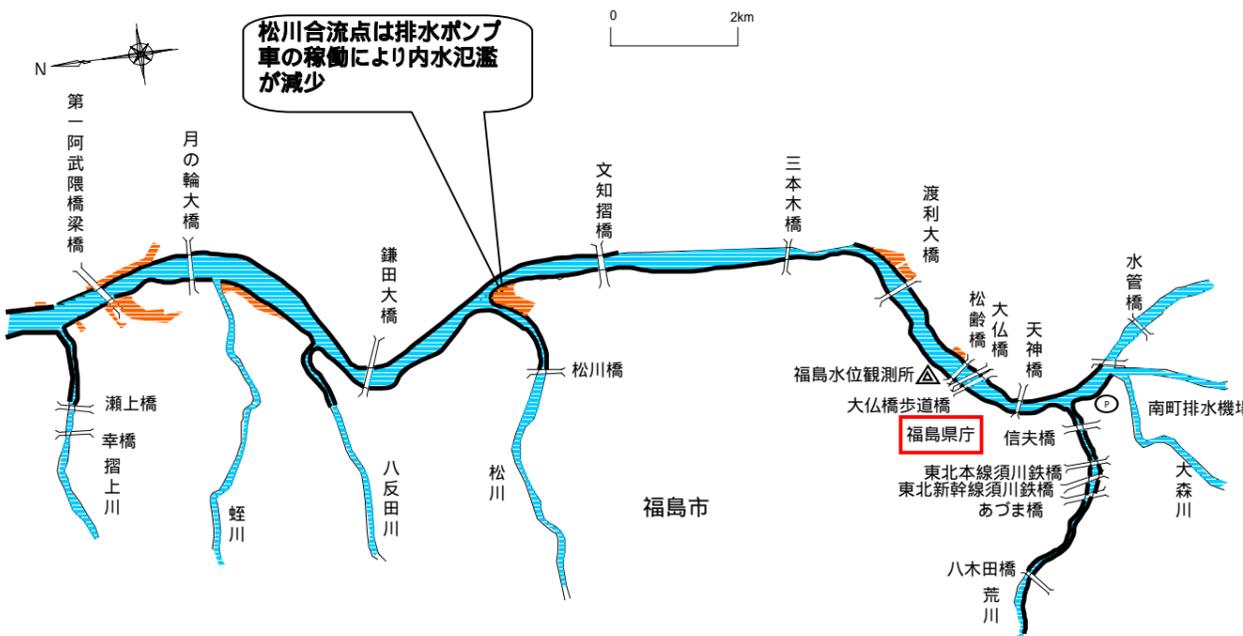
平成10年8月洪水



南町排水機場の整備により、内水被害軽減(荒川合流点左岸)  
 平成10年8月洪水を契機に管内への排水ポンプ車を配備  
 外水氾濫区域 0ha  
 内水氾濫区域 22ha

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	排水機場
	既設堤防
	S61年8月洪水で治水対策を行った区間

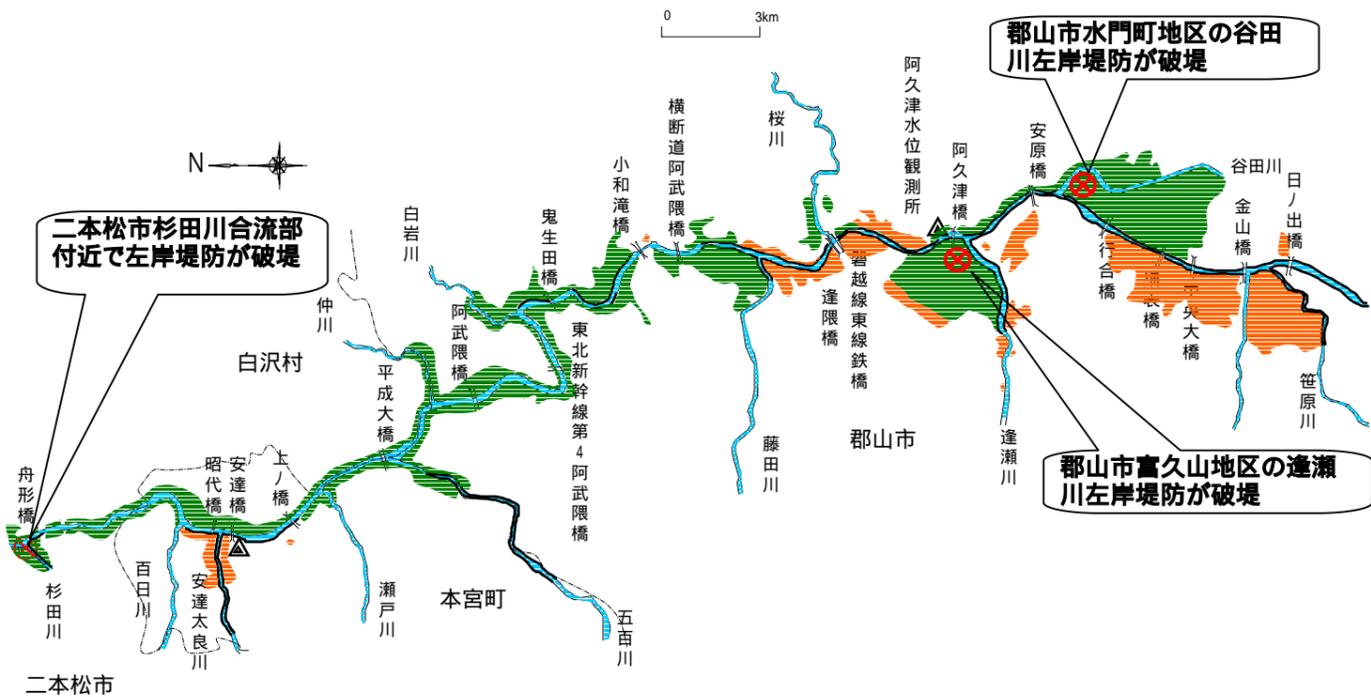
平成14年7月洪水



排水ポンプ車の稼働により、内水被害軽減(松川合流点付近の本川左岸)  
 外水氾濫区域 0ha  
 内水氾濫区域 22ha

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	S61年8月洪水で設置した排水機場
	排水機場
	既設堤防
	S61年8月洪水で治水対策を行った区間
	H10年8月洪水で治水対策を行った区間

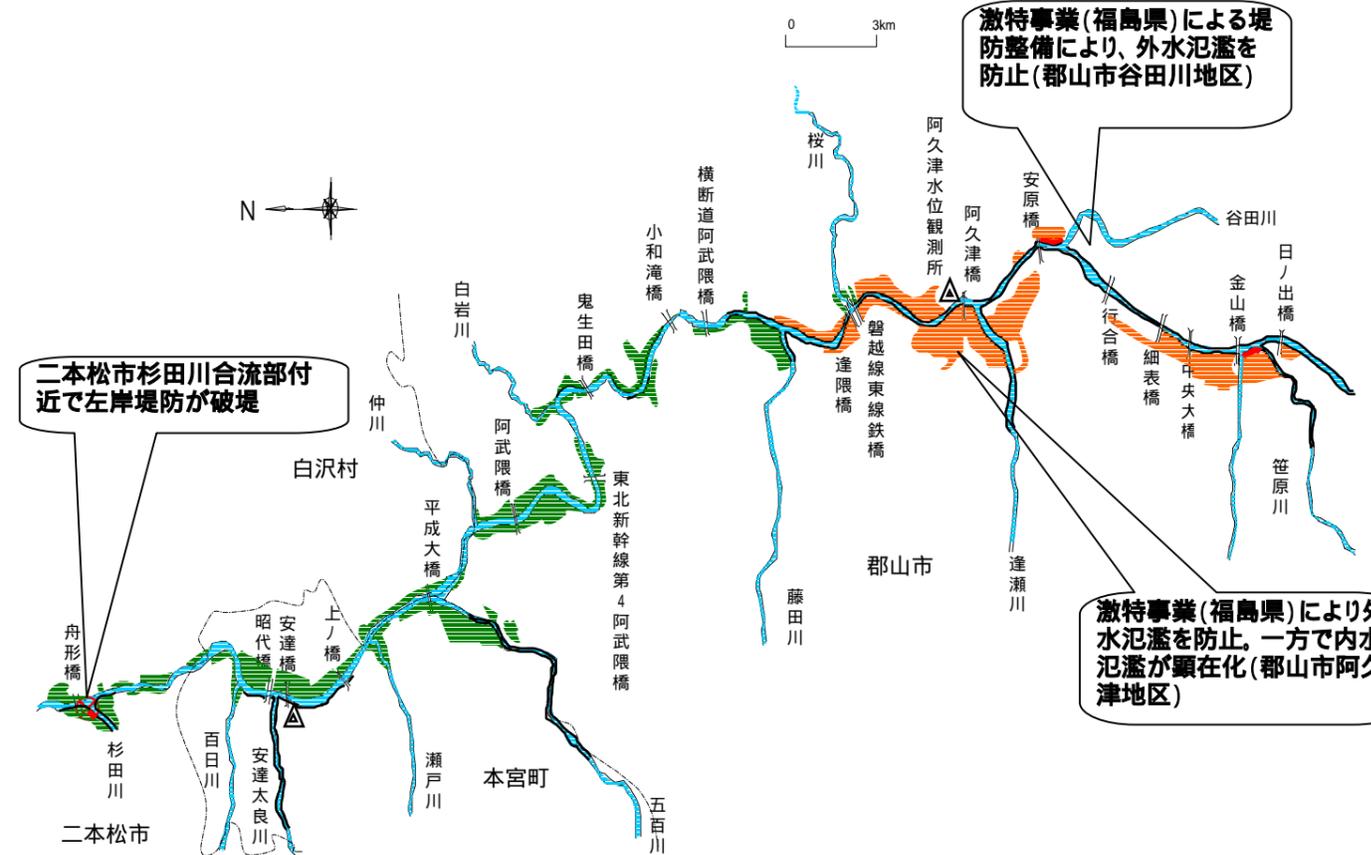
本宮・郡山地区 昭和61年8月洪水



左支川杉田川合流部左岸が破堤  
 郡山地区で合流する右支川谷田川、左支川逢瀬川で堤防が破堤(県管理区間)  
 昭和61年8月洪水を契機に県管理区間で激特事業に着手  
 外水氾濫区域 780ha  
 内水氾濫区域 280ha

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	破堤箇所
	既設堤防

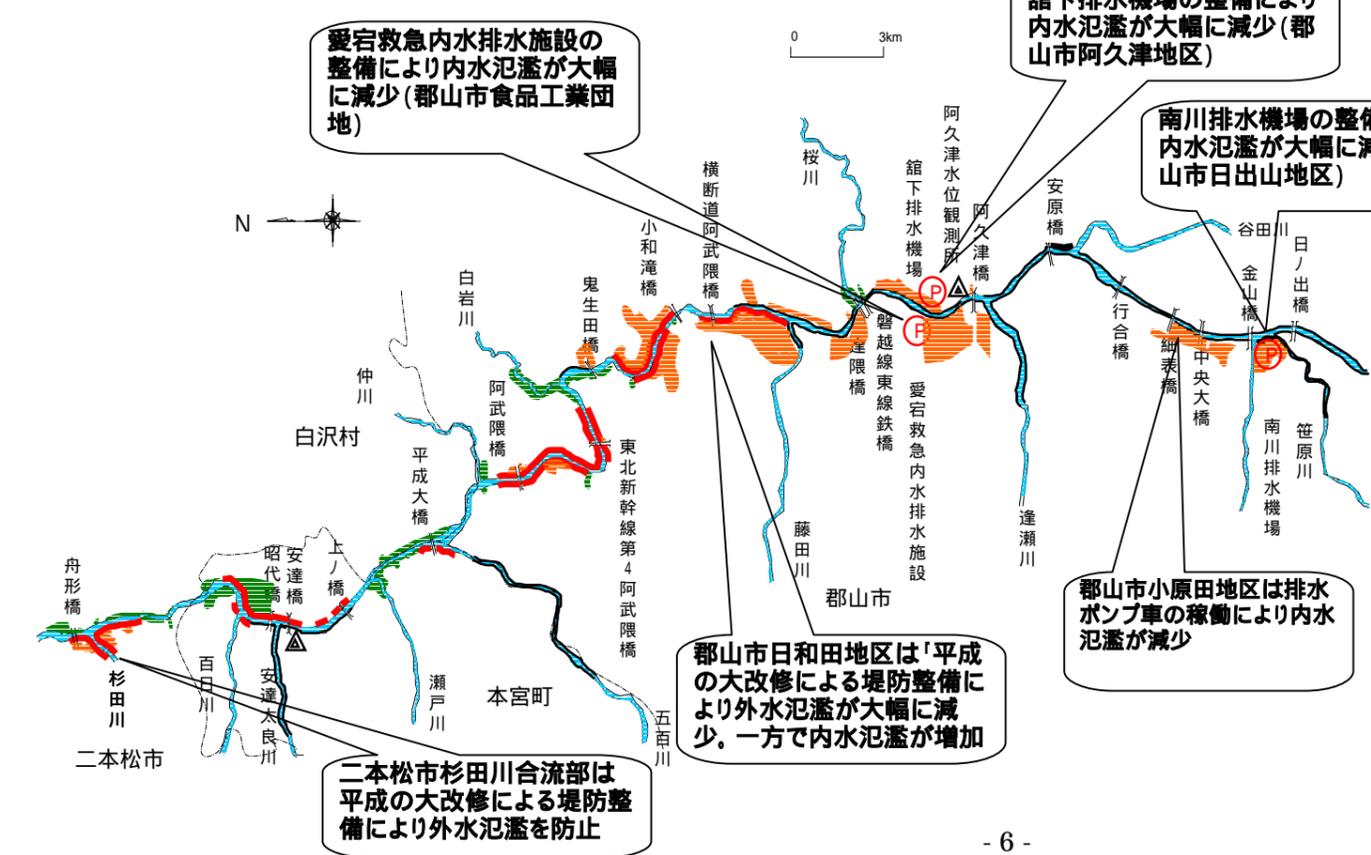
平成10年8月洪水



左支川杉田川合流部左岸が破堤  
 激特事業(福島県)による支川の堤防整備により、外水氾濫が減少(郡山市谷田川左岸地区、逢瀬川左岸地区)  
 一方で、内水氾濫が顕在化  
 無堤・暫定堤箇所において、外水氾濫が発生  
 外水氾濫区域 290ha  
 内水氾濫区域 250ha  
 堤防整備延長 3.3km  
 平成10年8月洪水を契機に平成の大改修に着手  
 平成10年8月洪水を契機に排水ポンプ車を配備

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	破堤箇所
	既設堤防
	S61年8月洪水で治水対策を行った区間

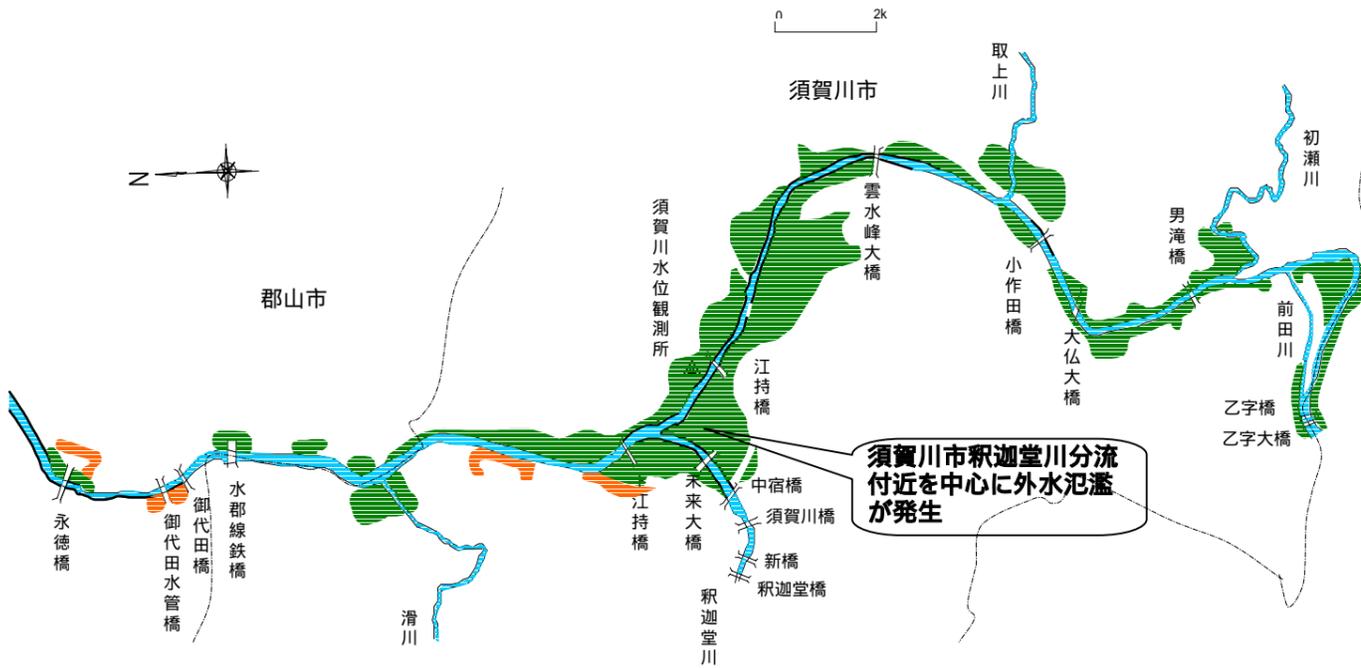
平成14年7月洪水



平成の大改修による堤防整備により、外水氾濫が減少。  
 内水排水施設整備により、内水氾濫が減少(郡山市食品工業団地、阿久津地区、日出山地区)  
 外水氾濫区域 110ha  
 内水氾濫区域 210ha  
 堤防整備延長 11.8km

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	排水機場
	既設堤防
	S61年8月洪水で治水対策を行った区間
	H10年8月洪水で治水対策を行った区間

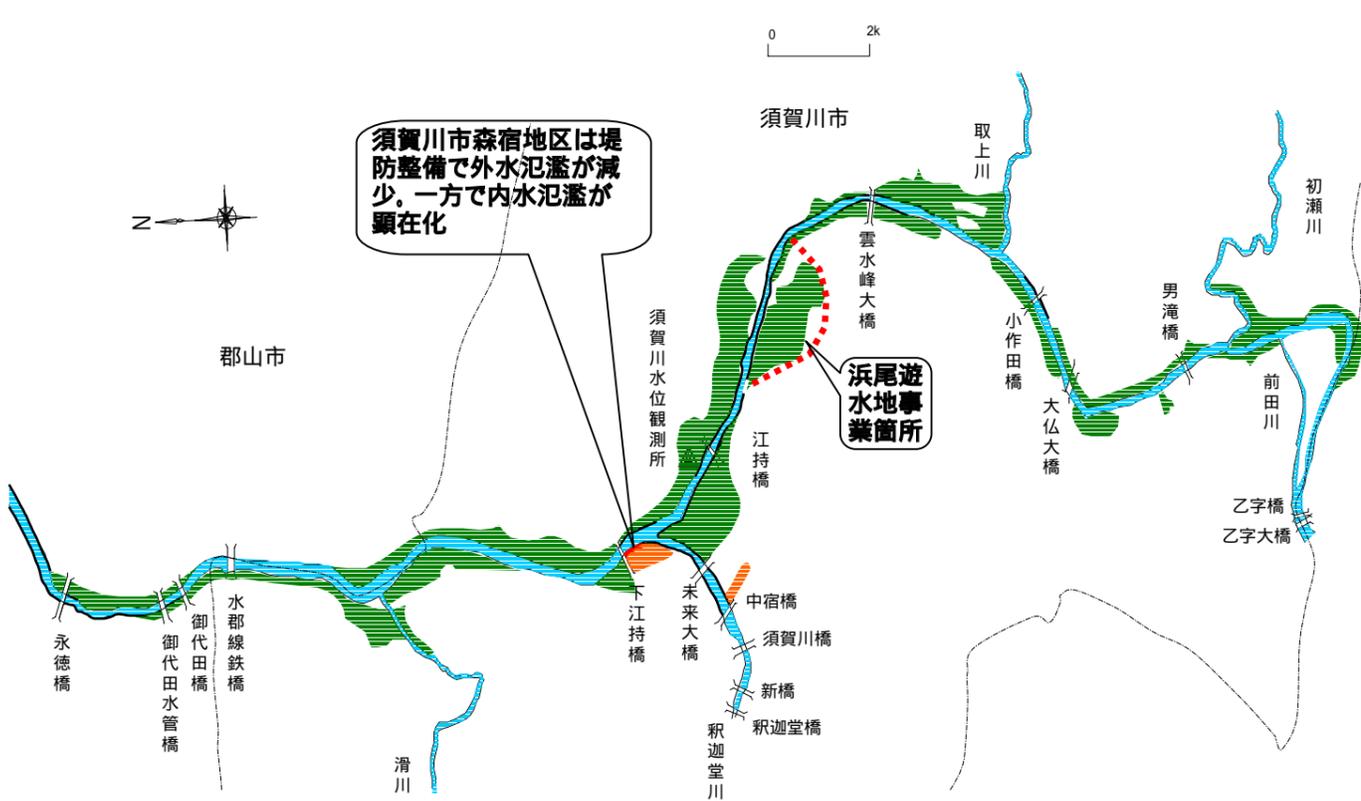
須賀川地区 昭和61年8月洪水



無堤・暫定堤箇所において、外水氾濫が発生  
 外水氾濫区域 520ha  
 内水氾濫区域 9ha

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	既設堤防

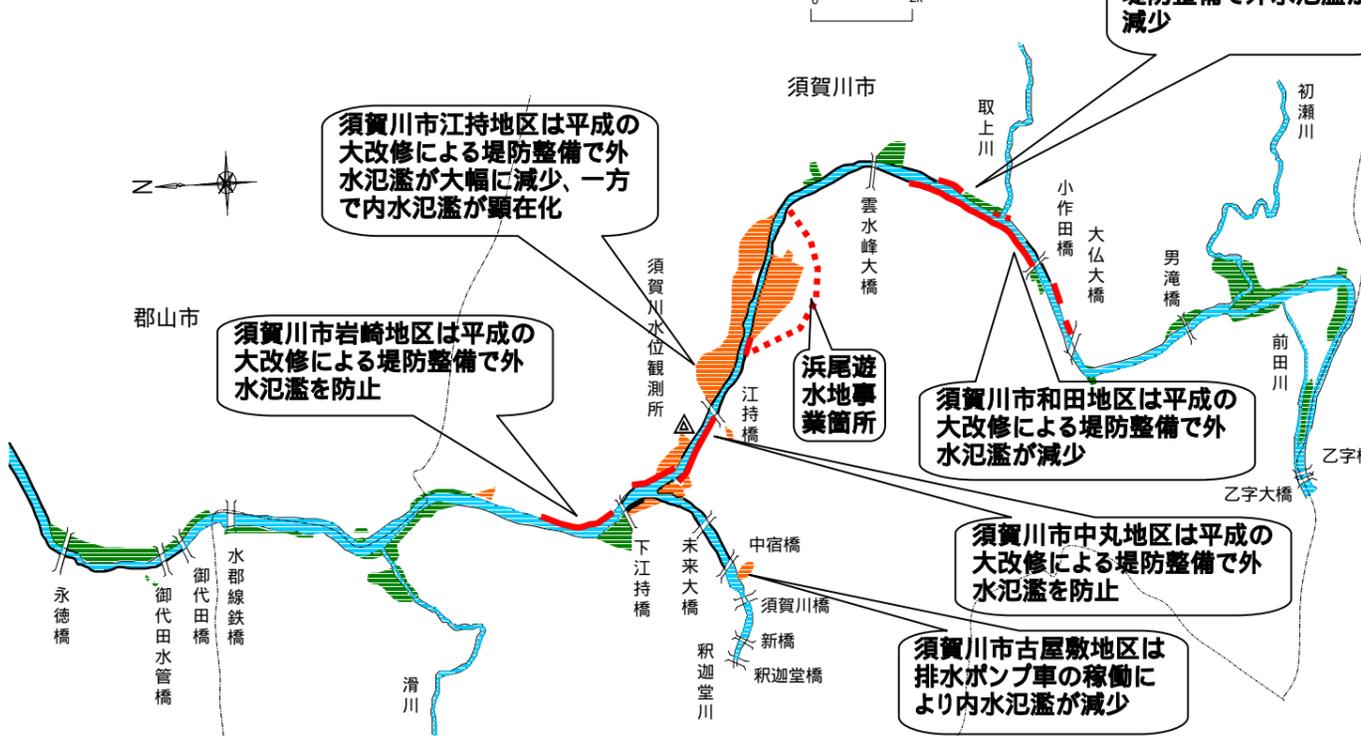
平成10年8月洪水



無堤・暫定堤箇所において、外水氾濫が発生  
 外水氾濫区域 400ha  
 内水氾濫区域 6ha  
 堤防整備延長 0.8km  
 平成10年8月洪水を契機に平成の大改修に着手  
 下流の水位低減のため、浜尾遊水地の建設に着手  
 平成10年8月洪水を契機に排水ポンプ車を配備

凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	既設堤防
	S61年8月洪水で治水対策を行った区間

平成14年7月洪水

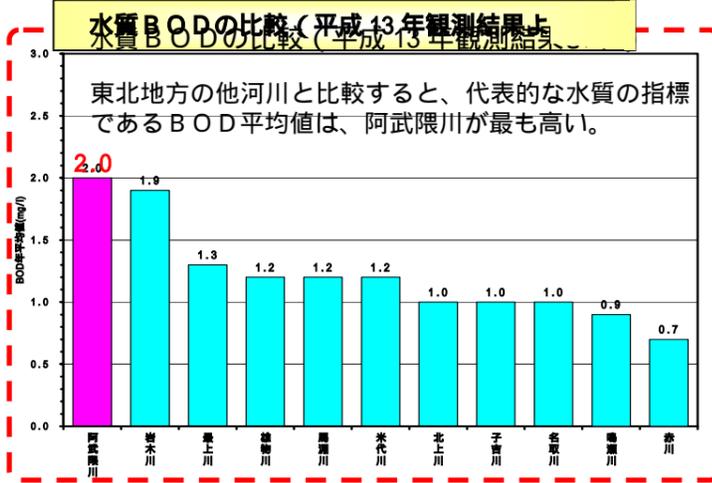


平成の大改修による堤防整備により外水氾濫が大幅に減少。一方で内水氾濫が顕在化  
 浜尾遊水地は、平成15年度に概成  
 外水氾濫区域 90ha  
 内水氾濫区域 70ha  
 堤防整備延長 4.1km

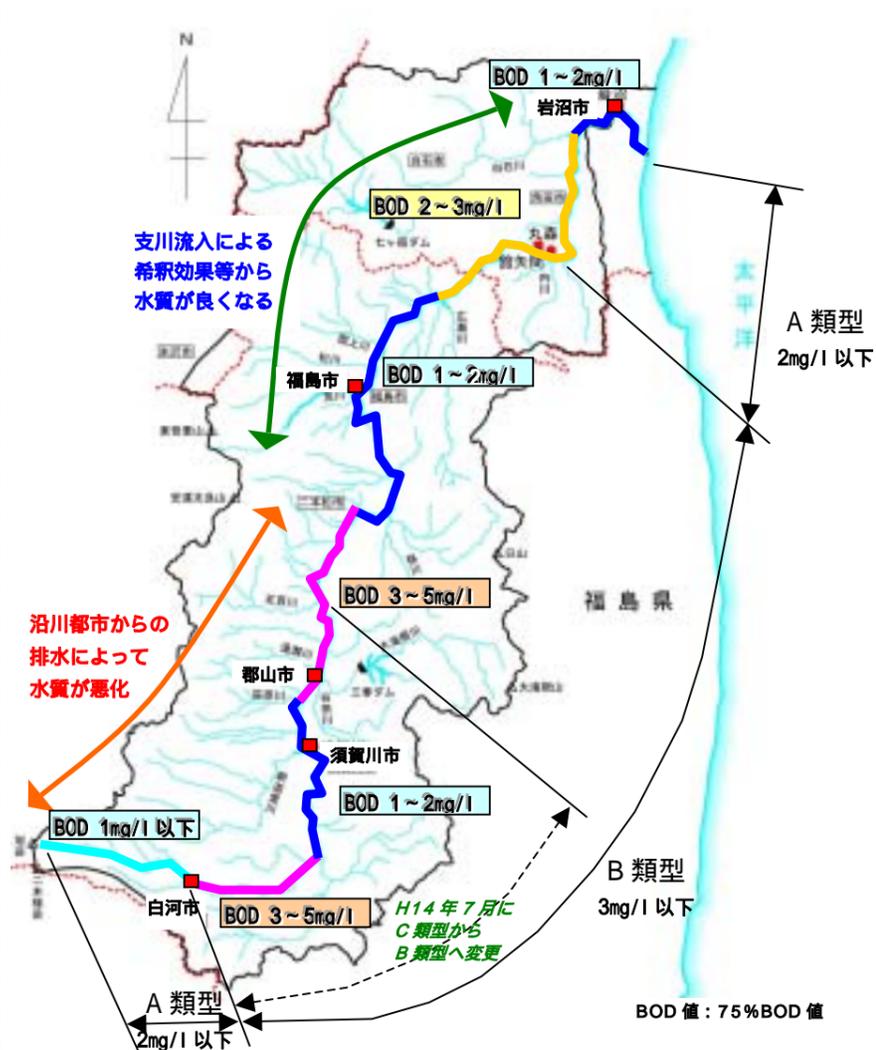
凡 例	
	外水
	内水
	水位観測所
	既設堤防
	S61年8月洪水で治水対策を行った区間
	H10年8月洪水で治水対策を行った区間

# 阿武隈川における現状、特徴及び課題

## 適正な水利用の実施



### 上流域の都市化による本川水質の悪化(平成12年度測定値より)



### 本川・支川別 都市用水(上水道)の取水位置図

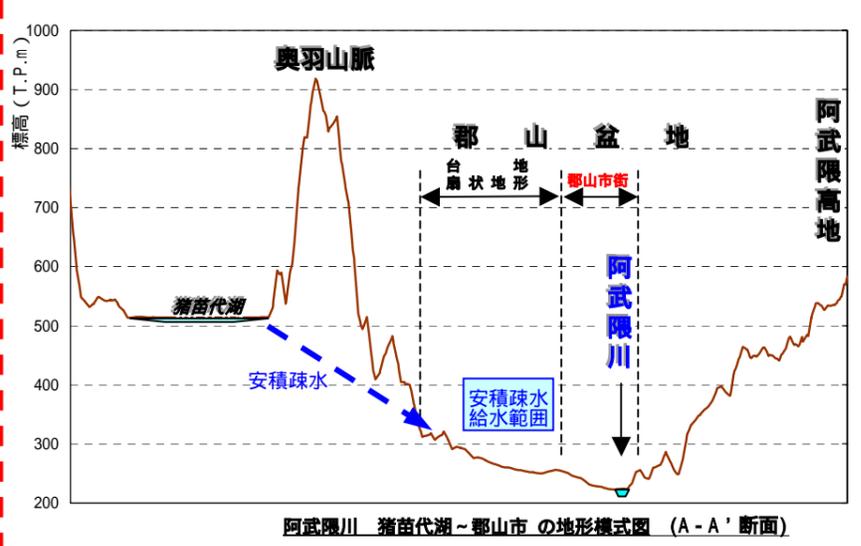


阿武隈川から下流都市部へ都市用水を供給しているが、その水源のほとんどは、支川によるものである。

上水道用水の取水地点と取水量

本川・支川	取水地点数	取水量 計
本川	7箇所	1.5m <sup>3</sup> /s
支川	30箇所	5.71m <sup>3</sup> /s

### 明治時代に他流域から安積疎水を建設し用水を確保



流域界の山々が浅いため、地形的に本川からの取水が困難な地形である。  
郡山盆地は、台地上で支川の扇状地に囲まれている。  
郡山地区では、明治時代に用水確保のため、他流域(猪苗代湖)から導水する安積疎水(あさかすい)を建設した。  
<安積疎水諸元>  
・明治初期に安積原野開拓のため計画  
・明治12年 オランダ人技師ファンデルンが設計監修  
・明治12年に着工し、同15年に竣工  
・最大 15.67m<sup>3</sup>/s の灌漑用水を供給

### 流域一体となった水質改善へのとりくみ

阿武隈川サミットによる上下流域一体となった源流での植樹



阿武隈川サミットによる上下流域一体となった河口清掃



阿武隈川における現状、特徴及び課題

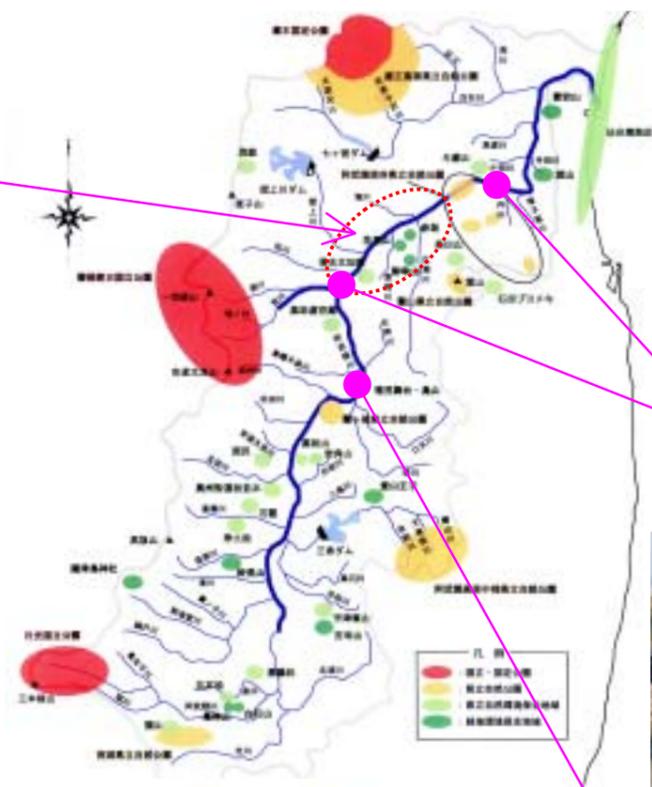
豊かな河川環境の保全



アユの産卵床が連続する中流域（福島市）



平成14年には「尺アユ」を確認



いかだ下り大会



福島県庁裏の『隈畔』



東和町のカヌーレーシング



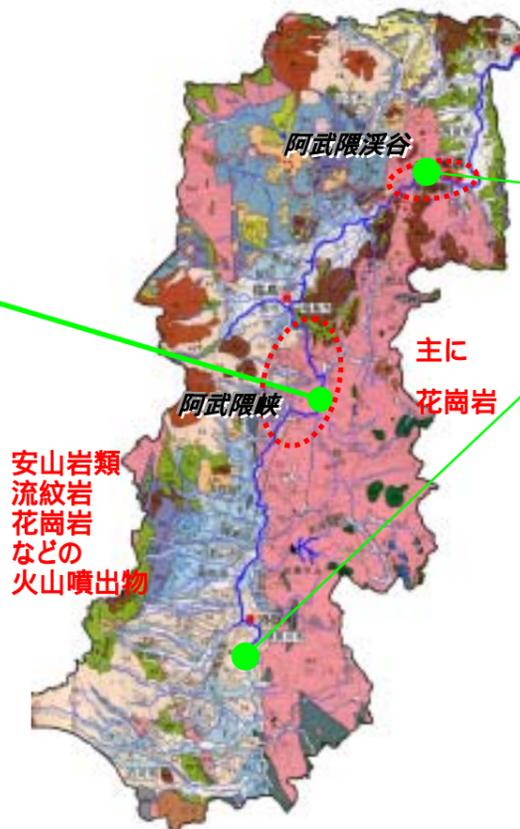
御倉町の船着き場

平成の大改修事業の一環として御倉町の川岸に復元された石積み護岸の船着き場



稚児舞台（阿武隈峽）

兩岸の奇岩怪石がせまり阿武隈川が大きく蛇行し滝や瀬、瀬場が千変万化の景観を見せる、平安時代の武将、源義家の凱旋を巨岩の上での稚児の舞で歓迎した。というのが名前の由来。



安山岩類  
流紋岩  
花崗岩  
などの  
火山噴出物



乙字ヶ滝

日本の滝百選に選ばれた乙字ヶ滝。松尾芭蕉が「五月雨は滝降りうづむ水かさ哉」と詠んだ



阿武隈溪谷

舟運の名残を今に伝える阿武隈ライン下り